

## 平成29年度 第2回鳴門市総合教育会議 議事録

平成30年3月29日、13時30分に鳴門市本庁舎3階会議室で開会。  
同日15時に閉会した。

### ・出席者

(会議構成者)

泉市長、安田教育長、寺田委員、小松委員、丹羽委員、甲斐委員

(会議構成者以外)

市長部局

谷副市長、三木政策監、来島事業推進監

三居戦略企画課長、津田戦略企画課主幹兼副課長、伊勢戦略企画課主事  
教育委員会事務局

大林教育次長、竹田教育総務課長、竹下学校教育課長、笠原生涯学習人権課長  
池脇教育総務課副課長、川上学校教育課副課長、平野学校教育課主査

### ・傍聴者

なし

### ・会議は、市長が議事を進行した。

### ・議事の内容は次のとおりである。

(1) 高校入試制度について

(2) 学期制のあり方について

### ・三居戦略企画課長は、13時30分に平成29年度 第2回鳴門市総合教育会議の開会を宣言した。

### ・三居戦略企画課長は、鳴門市総合教育会議設置要綱第5条の規定に基づき、議事の進行を市長に求めた。

### ・市長は、議事(1) 高校入試制度について説明を求めた。

竹下学校教育課長は、徳島県公立高等学校入学者選抜についての対応経緯等について説明した。

- ・市長は、現在の学区制の区割り見直し案を説明した後、教育長及び各委員に意見を求めた。
- ・丹羽委員は、学区制が廃止されれば選択肢が広がり、子ども達が希望を持って受験ができるようになる一方で鳴門市の子ども達が市外へ流出しすぎる問題も出てくるという意見を述べた。
- ・寺田委員は、学区制を廃止して全県1区にするという考え方以外にも徳島市内の高校の普通科の定員を増やしてもらうことで学区外から入学できる定員の8%という枠も必然的に広がるという意見を述べた。
- ・小松委員は、学区制の区割りの見直しについては賛成であるが、鳴門高校の学力を上げることで鳴門市の子ども達が市外に出て行くだけでなく鳴門高校を目指す子ども達も増えるのではないかという意見を述べた。
- ・甲斐委員は、学区制を廃止すれば、不本意な遠距離通学が増えることについて懸念していたが、廃止ではなく学区制の区割りの見直しであればその問題は解消されるのではないかという意見を述べた。
- ・教育長は、入試の機会と選択肢の自由が大切だと考えるが、現状の学区制ではそれが確保されていないことと公平な競争が行われていないことが問題であると述べた。
- ・市長は、特色のある学校づくりを進めていく上でもまず先に学区制を廃止するべきであると述べた上で、まずは学区制の区割り見直しについて他の自治体に意見を求めることを教育長・各委員から了承を得た。

・市長は、議事（2）学期制のあり方について説明を求めた。

竹下学校教育課長は、学期制に関するアンケート調査の実施結果等について説明した。

- ・市長は、学期制のあり方について、教育長・各委員に意見を求めた。
- ・小松委員は、2学期制について保護者の方からは通知表の回数を見直してほしいという意見が多く、長期休暇の前に評価をすることができないか考える必要があるとの意見を述べた。
- ・丹羽委員は、教員のアンケート結果について、中学校の先生が小学校の先生と比べて3学期制が望ましいと回答した割合が高かったことについて詳しく分析をする必要があり、3学期制に戻すとしても、現在の2学期制の良さを残しつつ移行するのがよいという意見を述べた。

- 教育長は、現在の2学期制の良さを生かした3学期制のあり方をさらに検討する必要がある、高校は3学期制であることなど小中高の連携を含めて考えていくことが重要であると述べた。
- 寺田委員は、3学期制に戻るのであれば、説明できる正当な理由付けが必要になると述べた。
- 市長は、通知表については回数だけではなく内容も重要であり、保護者の方に理解してもらえるように考えていく必要があると述べ、学期制については、今後も分析を進めながら引き続き議論をしていくと述べた。
- 三居戦略企画課長は、15時に閉会を宣言した。